

「子育て家庭に寄り添う家庭的保育」に関するアンケート 報告

2025 年 5 月

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会

I. 調査の目的

家庭的保育を利用する子どもや保護者とのやりとりを通じて、また地域の親子とのかかわりを通じて、日頃から感じている『家庭的保育の良さ』をアピールすると共に、家庭的保育の機能・役割を『保育を必要とする子ども』から『地域で子育てしている家庭』に広げるにあたり、『家庭的保育でできること』を本協議会会員並びに全国の家庭的保育者、職員と確認・共有することを目的とする。

II. 調査の方法、回収率

実施時期：2025 年 1 月 31 日～2 月 28 日

調査対象：家庭的保育者、職員

方法：質問紙を家庭的保育全国連絡協議会会員（正会員、準会員、賛助会員）383 名に配付、web アンケートに回答または郵送で回収

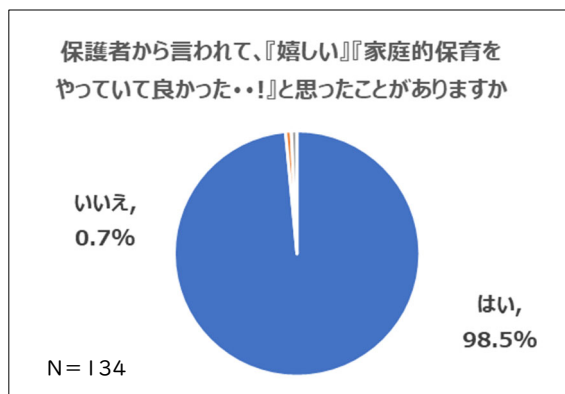
回収数：134 件 web アンケートは会員外も回答できることとしたため、厳密な回収率は出せないが、対会員比率では、回収率は約 35%であった。

III. 結果

1. 家庭的保育を利用する保護者から言われた言葉

家庭的保育を利用する保護者から言われて、『嬉しい』『家庭的保育をやっている良かった…』と思ったことがあるかをたずねた結果では、「はい」が 98.5%であり、ほとんどにその経験がある。「いいえ」と回答したのは、補助者等保護者と接する機会がない職員が含まれると考えられる（図表 1-1）。

図表 1-1 保護者から言われて嬉しかった経験



保護者からかけられた言葉を具体的に記入してもらった結果、同じ言葉で表現されたもののうち多かったのは、図表 1-2 の通りであった。

図表 1-2 同じ言葉で表現され、多かったもの

この保育室で過ごせてよかった・預けて良かった	22
少人数で良かった	19
安心して預けられる	18
手厚く保育してもらえた	11
ていねいな保育	10
下の子をお願いしたい	8

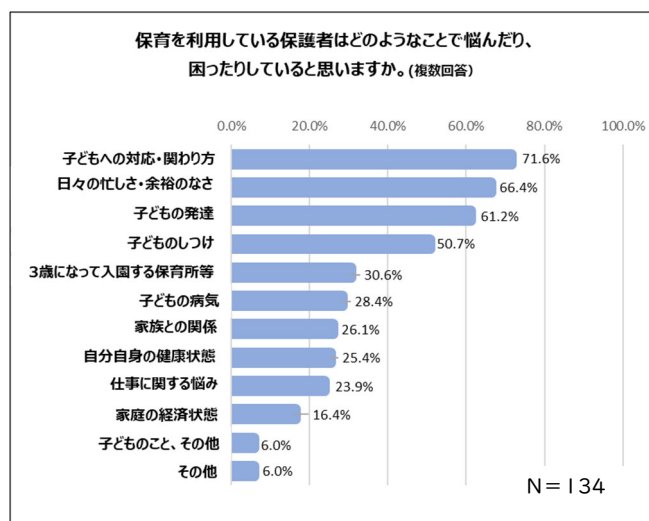
また、同じ表現ではないが、同じ意味合いと考えられるものを整理した結果、「手厚い保育、ていねいな保育」（36 件）、「親も子も安心」（35 件）、「支えてもらった、救われた」（35 件）、「この保育室で良かった」（28 件）、「1 人ひとりをしっかり見ている」（28 件）などがあげられた。詳細は、4P の図表 1-3 に示す。

2. 家庭的保育を利用する保護者への対応

(1) 保護者の悩み、困っていること

家庭的保育を利用する保護者が悩んだり、困ったりしていることとして多く選択されたのは、「子どもへの対応・かかわり方」（71.6%）、「日々の忙しさ・余裕のなさ」（66.4%）、「子どもの発達に関する悩み」（61.2%）、「子どものしつけに関する悩み」（50.7%）の順に多かった。

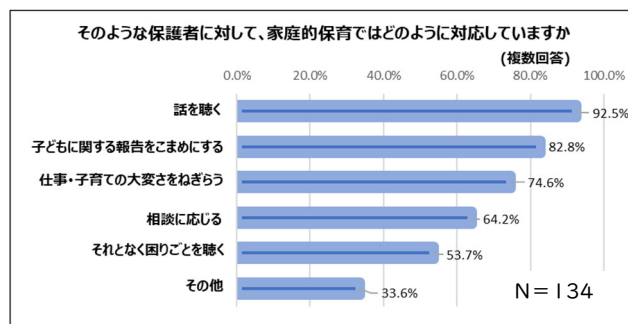
図表 2-1 保育を利用する保護者の悩み、困りごと



(2) 家庭的保育を利用する保護者への対応

(1) で見られるような悩みや困りごとを持つ保護者に対して、家庭的保育ではどのように対応しているかについてたずねた結果（図表 2-2）では、「話を聴く」（92.5%）、「子どもに関する報告をこまめにする」（82.8%）、「仕事・子育ての大変さをねぎらう」（74.6%）、「相談に応じる」（64.2%）の順に選択された。

図表 2-2 保育を利用する保護者への対応



その他には図表 2-3 の内容が示された。

図表 2-3 保育を利用する保護者への対応(その他の記述)

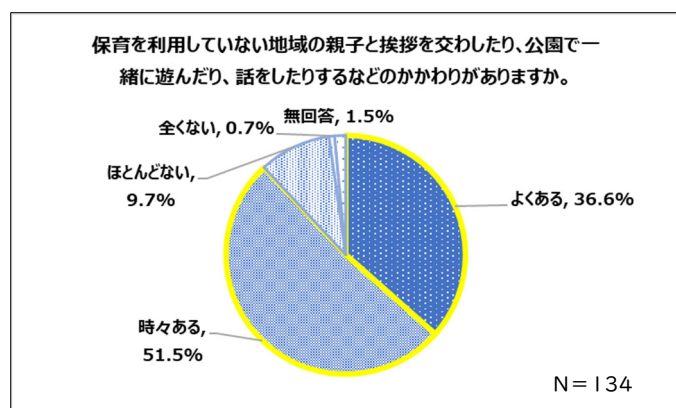
子育てで悩んでいる保護者には、私たちにできること、保育室での毎日でできることはしてあげたい。保育室で子どもの力がつけられるように、一人一人にじっくりと関わってできることを増やし、「何とかなるさ」と子育てで悩んでいることの一つでも私たちに任せてもらって、少しでも保護者の肩の力を抜いて、楽に楽しく子育てしてもらえようと思っています。 子育て講座を開催する 全2回コース6時間
懇談会、保育参加、親子遠足など、保護者同士でもコミュニケーションが取れるように場を整えた。 ・子どもができたことを常に伝えるようにし、子どものことだけではなく保護者自身のことも気にかけている ・髪型が変わったことを伝えたり、おしゃれなことを伝えたり、顔色が優れないことなどそっと伝えるような声掛けを心がけている。連絡帳も活用している。 ① 相談に応じたり、困ったことがあればできるだけ協力する意思を伝えている。 ② 子どもの可愛い行動や成長の様子を日々口頭で、また保育室だよりに一人一人の活動の様子や保育者や友達とのかかわりなど実名をあげ具体的に紹介し、我が子は勿論子どもたち全員の成長の様子を共感できるようにした。 悩みは聴きますが、答えを出すのは本人ですので、そっと寄り添っています。時には、母のように、また祖父のように、身内のように大切に気持ちに寄り添います。 何か問題や悩みを抱えていることを感じたり気づいても様子を見ながら待つ。子どもへの影響も考えて、さりげなく様子を見守り、保護者が何か話してきたり対応が必要だと感じたら、保育の中での楽しい出来事やこどもの新しい成長や子どもの良いところを伝えて安心できる内容を提供しながら、聴くことを大切に心掛けてきた。個人情報などは守秘として、伝えてよいことは職員全員で共有し、保育室全体で対応するようにした。 保育時間外に個別に時間を作り話を聞いたり、場合によっては家庭訪問するなど、状況に合わせて必要だと思う対応をしている。 自分自身の子育て経験も交えながら、保護者の方の気持ち、悩みに共感して、「1人じゃない」ということに気付いていただけるよう、日常の何気ない話でも気軽に話していただけるような雰囲気作りを心掛けています。

3. 地域の親子とのかかわり

(1) 地域の親子とのかかわり

保育を利用していない地域の親子と挨拶を交わしたり、公園でいっしょに遊んだり、話したりするなどのかかわりがあるかどうかをたずねた結果では、「よくある」(36.6%)、「時々ある」(51.5%)合わせて約9割が地域の親子とのかかわりがあると回答した。「ほとんどない」、「全くない」を選んだ中には、エリア的に地域の親子と会うことがないという記述も見られた。

図表 3-1 地域の親子とのかかわり

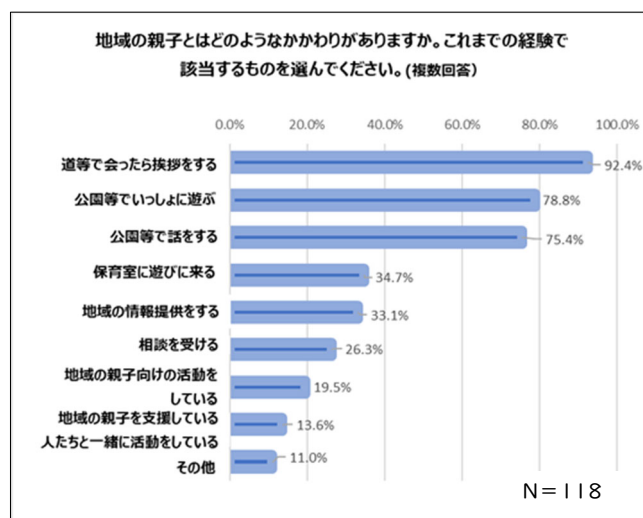


(2) 地域の親子との具体的ななかかわり

「道等で会ったら挨拶をする」(92.4%)、「公園等であいっしょに遊ぶ」(78.8%)、「公園等で話をする」(75.4%)の3項目は全体的に高い割合で選択されていた。また、「保育室に遊びに来る」(34.7%)は3分の1強が選択しており、出かけた先での交流のみならず、もう一歩進んだ地域の親子とのかかわりがある家庭的保育室があることが確認された。

また、地域の情報提供や相談対応の他、「地域の親子向けの活動をしている」は約2割に見られ、「地域の親子を支援している人たちと一緒に活動をしている」家庭的保育室も13.6%あることが明らかになった。

図表 3-2 地域の親子との具体的ななかかわり



図表 3-3 地域の親子向けに行っている活動

一時預かり（余裕活用型）の案内を必ずしてくる。一時預かりでなくても見学や体験（短時間）の案内をする。地域の方々に家庭的保育を知ってほしい。
一時預かり
月に1度地域子育てサークルを実施し、交流している。 行事をする時は近所の方を誘い、楽しむ。
毎月0,1,2歳向けの親子イベントを行い、家庭的保育の良さを伝えていきます。そこから入室につながっています。
月に1度、限定2組の親子を募り在園児と一緒に過ごす。 時々、土曜日に保育室開放をして在園児、卒園児、地域の方との交流を図る。
毎月おはなし会を実施して17年、地域の親子も参加して在室の子どもたちと一緒に過ごすことで、いやいや期の姿をみて「うちの子だけじゃないのね」そんな時期なんだ「わがままかと思ってた」 「投げてばかりいるから困っていたけれど、成長なんですね」我が子だけを見ていないと気がつかないことが会に参加するだけで知れたり、「心配することじゃないんだ」と安心したり、お母さん同士が友達になって、一緒に公園に行けるようになったりして子育て仲間の輪が広がっています。

図表 3-4 地域の親子を支援している人たちと一緒に活動

町の育児ボランティアの団体と一緒に年3回の行事や絵本作家を招いてのイベントを行っている。
町内会のイベント（夏祭り、餅つき等）
学区の公民館で行われている子育てサロンのお手伝いをし、年間活動計画で担当の月、行事を任せていただき、遊びを考えたり、子育て中の保護者の悩みや相談などを聞き、地域の保護者と一緒に皆で共有し、考えていく場を設けている。

週 1 で、子育て支援サークルの活動に保育室の子どもたちと参加している。
経営母体の子育てひろば事業を受託していて、散歩でひろばに行くことが多く地域の親子と関わることが多い。園庭解放には地域の親子、卒園児親子がきて相談事などを聞くことも多い。
近郊のコミュニティセンターで行われている"子育てサロン"に出向き、一緒に遊ばせていただき、その後絵本の読み聞かせ、体操、手遊び等を披露して、一緒に楽しんでいる。
子育て支援センターで劇やお遊戯などを毎月提供した。
地域で行っている「公園ひろば」など、月 1 回あるので、なるべく参加するようにしている。

図表 3-5 地域の親子とのかかわり その他

ファミリーサポートの登録をしている（日祝日のみ）
引っ越しをしてきた親子、初めての子育ての親子、母親が外国籍の親子などが一緒に散歩したり遊んだりする事が多い
地域自治会とのかかわりや広報発行時に紹介してもらう。子どもとの触れ合いは少ないが保育室を知ってもらうきっかけとなる。
積極的な支援は地域の子育て支援センター（公立）で行うため、家庭的保育は自分の施設の子どもたちを手厚く見てほしいと役所より言われています。
次世代交流のおじいちゃん、おばあちゃんや介護の職員の方々と子どもが商店街で会って声をかけてもらったり、保護者への職場紹介に介護施設の紹介があったりと、地域のつながりが広がっています。 公立施設も民間施設も誰か保育士さんいないかしら？と保育士職員の紹介の場にもなっている私たちです。
公園でお友だちのいない親子と一緒に遊び、他の子育て親子とお友だちになれるように仲立ちをした。また、子育て支援センターに孤立している親子といっしょに行った。 親子で遊んでいる方に声をかけ、あまり話したくない様子であれば挨拶程度で終わらせ、話せるようであればお子さんの年齢など話を広げたり、その年の姿などを話したり、悩みを話していただくこともありました。

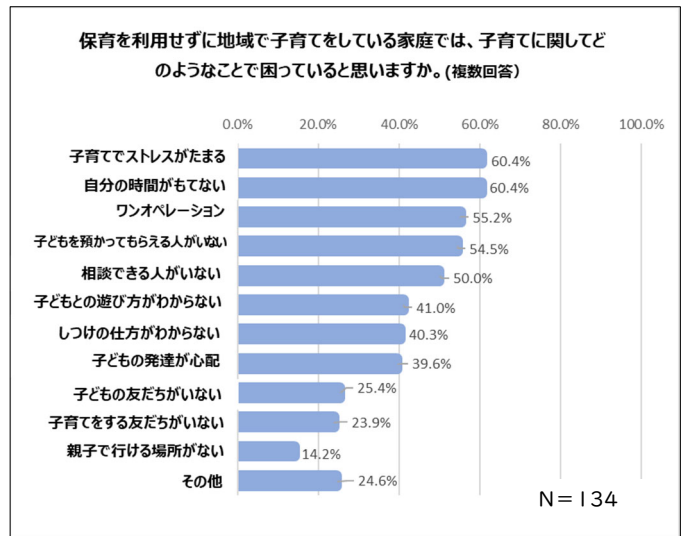
(3)地域の子育て家庭の困りごと

「子育てでストレスがたまる」「自分の時間がもてない」（いずれも 60.4%）、「ワンオペレーション」（55.2%）などの順に多かったが、続く「子どもを預かってくれる人がいない」、「相談できる人がいない」、「子どもとの遊び方がわからない」、「しつけの仕方がわからない」などについては、家庭的保育でもなんらかの形で協力できる要素がある内容があげられている。（図表 3-6）

(4)地域の親子のために家庭的保育ができること

今行っているさまざまな取り組みや、今後家庭的保育のできるのではないかと思う取り組みについて意見を求めた。（図表 3-7）出会った保護者にあいさつや声かけをすることから始まり、名刺やパンフレットを渡して、家庭的保育事業の紹介やそれぞれの保育室の存在を伝え、保護者が安心して話ができるような準備を整えたうえで、公園等で子どもを遊ばせながら話をしたり、相談にのったり、時には、いつでも保育室に来ていいよという声掛けもしている様子が明らかになった。

図表 3-6 地域の子育て家庭の困りごと



図表 3-7 地域の親子に対して家庭的保育ができること

公園や児童館で会った時にさりげなく話しかけてみる。（あまり多くは聞かないようにする） 保育の事を聞かれた時に渡せる名刺を持参している。
親が群れたくない人が多く、こどものためにいろいろな居場所へ行くが、放浪している。発達の情報や子育てのアイデアを伝える。
孤立している親子というのは、まだどこにもお子さんを預けてはいないのでしょうから、お子さんを産む前や産んですぐから、産院や保健所の妊婦クラスや健診に集まった保護者に、保育施設の種類や、家庭的保育の存在を知らせたり、メリットを説明する機会を設けて、実際に家庭的保育者や預けた経験のある方と直接話せると良いと思います。
散歩されてる方や公園で遊んでいる親子の方々に声を掛けて保育室に遊びに来ませんか？と声を掛けたりパンフレットを配りながら、こども相談できる場所だよとお知らせしていた。 いつでも遊びに来ていいよ、と声かけ。
ホームページでの情報提供 遊ぶ場を提供して、保護者同士のつながりの場を作り、困っていることなど共有し、励まし合っていければと思う。
毎日の散歩ですが、あの時「こんにちは。お散歩気をつけていってらっしゃい」と声をかけてもらって、ここを探しましたと言って入室する親子もいました。「あいさつ」って声を掛け合うだけですが、目を見て笑顔を寄せ合う気持ちの良いものだと思います。小さい子どもたちに温かい目を向けてもらえることは、子どもを育てている親子にもつながっていくと思っています。地域に役立つことってこういう小さな積み重ねなのかなと思っています。
私の町では保健師さんが気になるお子さんがいると知らせてくれて、親子サークルや公園などで、その親子に会った時に声をかけやすい。気になる親子の情報を保健師さんや他の育児支援をしている方に伝えることで町で子育てをしている親子に誰かしらが関わることができている。少人数の家庭的保育だからこそすぐに対応することができると思う。 公園に遊びに来られているお母さんにこちらから声をかけるようにしています。次からはあちらから声をかけられて来られたり、話し出すと生き生きと話し始められる事が多いです。誰かと話すこと、誰かといること(子どもをみていること)で表情がやわらかくなる姿を何度も感じました。 誰でもが、いつでも気軽に立ち寄れる場所でありたいと思っています。

Ⅳ. まとめ

1. 保護者から寄せられた言葉

保護者からはさまざまな声が家庭的保育者に寄せられていたが、それらの言葉や表現は、日ごろから家庭的保育者が家庭的保育の特長として伝えている内容に近いものが多かった。このことから、家庭的保育者自身が思っている家庭的保育の良さや特長は、家庭的保育を利用する保護者にも伝わり、評価・支持されていることが明らかになったと同時に、家庭的保育者自身の言葉として伝えるよりも、保護者の言葉を借りながら伝えていく方がより効果的なのではないかと考えられる。

2. 家庭的保育を利用する保護者への対応

地域の親子とのかかわり

地域の親子に対して家庭的保育ができること

本報告に掲載しきれないほどのさまざまな考え方や取り組みが示され、それぞれの家庭的保育者が自身の考えに基づいて、保育を利用する保護者支援や地域の親子支援に取り組んでいることが明らかになった。取り組みは地域性やそれぞれの保育室の事情も関係すると考えられるが、全国の家庭的保育者並びに職員等との交流を通じて、どのような対応をしているかを情報交換しながら、できることから実践していくことが家庭的保育の可能性を広げることにつながっていくと考えられる。

図表 1-3 保護者の言葉—多く見られたキーワード

キーワード	件数	具体的に揚げられた内容
手厚い保育、丁寧な保育	36	手厚く保育してもらえた、細やかな保育、ていねいな保育、愛情をかけて大切にしてもらった、大切に保育、ここまでしてもらえる、しっかりした保育
親も子も安心	35	安心して預けられる、安心して仕事ができる、ホッとする、親も子も安心、落ち着く、居心地が良い
支えてもらった、救われた	35	子どもも親も親身になって支えてもらった、救ってもらえた、子育ての不安が和らいだ、親子とも甘えさせてもらった、信頼している、子どもの成長と一緒に喜ぶ、第2のお母さん、子育ての師匠
この保育室で良かった	28	この保育室で良かった、この保育室で過ごせて良かった、家庭的保育で良かった、この子に合った保育室、先生に見てもらえて良かった
一人一人をしっかり見ている	28	一人一人をしっかり見ている、一人一人に合わせる、一人一人に丁寧に向き合う、子どものペースを大切に、子どもを良く見てくれている、子どもの変化に気付く、子どもの体調などに応じた保育
下の子どももお願いしたい	24	下の子どももお願いしたい、ずっと(3歳以降も)ここに預けたい(かった)、上の子も預けたかった、入室できるなら第2子を生みたい、兄弟で利用
子どもが成長した	22	出来ることが増えて成長した、心も体も成長している、色々なことができるようになった、うちの子が変わった、いつの間にかオムツが取れていた
少人数	21	少人数で良かった、5人だからこそその保育、ちょうどいい人数
相談しやすい	18	相談しやすい、親身になって話をよく聞いてくれる、いつでも相談できる、子どものこと以外でも相談できた、じっくり話せて、聞ける
家庭的な雰囲気	15	家庭的雰囲気、実家のように、第2の家庭、アットホーム、親戚のような場所、自由な雰囲気、のびのびと過ごせる、子どものくつろげる場所
良好な育ちが得られた	15	優しい子に育った、子どもが落ち着いて過ごせるようになった、感情表現が豊かになった、自己肯定感が高い子どもに育った、卒園した子どもの現在の生きる源となっているのはここでもらった愛情であった、気持ちを伝えられる子どもに育った
感謝、助けてもらった	13	本当に感謝しています、先生方(園)のおかげです、育てていただきありがとうございます、助けてもらった
子どもが行きたい場所	12	子どもが保育室に行くのを楽しみにしている、休みの日も保育室に行きたい、いつも笑顔で登園、楽しく通える、保育室に行きたい
卒室後も会いたい、交流が続く	12	卒室後も、子どもが遊びに行きたい、先生に会いたい、卒室後も交流が持てている、帰ってこられる場所、戻ってこられる場所、一番会いたい人
いろいろな経験ができた	11	いろいろな経験ができた、行事の遊びをしてもらえた、公園でたくさん遊べて良かった、毎日が遠足
笑顔で受け入れ・温かい	11	温かい、たくさんの笑顔と温かい愛情をもらった、いつも笑顔で受け入れてくれる、温かく接してくれた、朝も帰りもととても元気に笑顔で出迎え
ずっと通いたかった	10	ずっとここに通いたかった、就学前まで在籍したかった、できるなら3歳児以降も通わせたい、卒園せずにずっと通いたい、ずっとここでいい
子どもの笑顔が見える	9	子どもの笑顔を作る・見守る、子どもの笑顔が増えた、楽しく毎日を過ごせる、保育室が楽しい、子どもが笑顔で帰ってくる
子どもの様子の報告	7	日々の様子を細かく話してもらった、連絡帳で細かく子どもの様子を伝える、細かく子どもの様子を聞ける、連絡ノートがわかりやすい
保育室が大好き	6	保育室が大好き、家族みんな、この保育室が大好きです、先生が大好き
いつも同じ保育者	5	先生がいつも一緒、職員みんなが関わってくれた
きょうだいのような存在	4	きょうだいのような環境、お兄さん、お姉さん、小さい子達と触れあえ、成長できる環境、他の子どもとのかかわりがある
保育日より、アルバム、作品	4	保育日よりが楽しみ、制作のクオリティーがすごい、作品が宝物、アルバムが嬉しい
給食おいしい、食習慣の向上	4	給食が美味しい、苦手なものが食べられるようになった、家でもよく食べるようになった
保護者との距離が近い	4	保護者との距離が近い、距離が近いので話しやすい、コミュニケーションがいっぱい
他とは違う	2	(他も見てきたが、)何かが違う、他の預け先と全然違う
その他	4	悪いところが見当たらない、発達支援学校の相談員からここに預けたいと言われた、いつ来ても同じ対応